



新年あけましておめでとうございます

今年は午年、疾風のごとく駆け抜けます

福井博一 岐阜大学応用生物科学部園芸学研究室 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
Tel 058-293-2892 E-mail fukui@gifu-u.ac.jp http://www1.gifu-u.ac.jp/~fukui/index.html

昨年のもっとも大きな出来事は、心ならずも学部長に就任したことです。これまでの私の生き方を大きく変えざるを得ない状況となりましたが、皆様のご協力の下、管理職としての大学の運営の仕事に加えて、これまで通りの花き業界のオピニオンリーダーとしてできる限りの役割を果たしていきたいと考えています。滞りがちですが、「教授の一言コラム」、よろしく願いいたします。



地方の時代といわれながら、地方大学は予算的にも厳しい環境に置かれています。多くの地方競馬場は経営の危機に陥っていますが、中央競馬しか生き残れない状況では活性化はありません。元気な地方があつてこそ！



北海道のばんえい競馬。サラブレッドのような分子生物学もいいですが、農業を支える無骨で力強い地道な研究こそが、日本の園芸を支える根幹だと信じています。



ウマヅラハギ。この魚の最大の売りは「肝」です。見た目はイマイチですが、味はフグにも劣らない鍋の主演。そして「肝」が大切！人間も同じです。肝心かなめの自分の立ち位置を見失わないようにします。

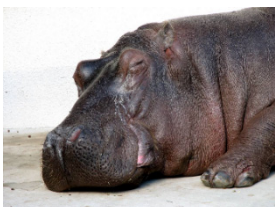


おいしそうなニンジンについつい惹かれて、本質を見失うことのないように心掛けます。大学の基本は教育！金に目が眩んで文科省の補助事業に惑わされないようにしたいものです。

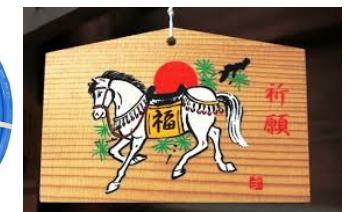
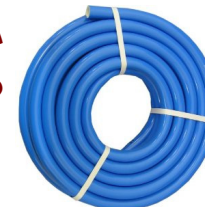
ワサビ大根(英名ホースラディッシュ)
あつあつのご飯の上にわさび大根を摺り下ろして醤油をかけて！ツーンとした香りがたまりません。暖かい人間性の中にピリツとした厳しさが重要です。



うま煮は、色々な素材が各々の味と歯ごたえを主張しながら、全体として料理の美味しさを作り出しています。個々の先生方の実力を引き出しながら、学部としての魅力を作り上げたいと思います。



とはいっても、カバ(河馬)のようにグータラしたい時もあります。強いリーダーシップと言いながら、ホースのように長い物に巻かれたい時もあります。時には神頼みもします。私はそんなに強い人間ではありません。愚痴を聞いてもらえる人を作らないといけないことを実感しています。

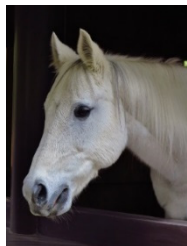




365日欠かさず飲んでます。オンザロックもいいですが、馬刺しに熱燗、堪りませんねえ。歳をとってくると、やはり日本酒。海外からの切り花の輸入攻勢に対して、国産切り花の振興策を考えます。



3人目の長男は新潟で大学院生。まだまだ子育てから離れられません。タツノオトシゴ(海馬)のように、一見波に揺られてフラフラしているようでも、いざという時には父親の役割をしっかりと果たします。



魅力的な牝馬に目が眩む時がないわけではありませんが、もうそんな歳でもありません。見るだけ、心の中だけにしておきましょう。しかし、気持ちだけはいつも若くありたいですねえ。

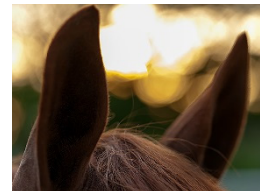


野に咲くウマノアシガタ。4~6月に咲くキンポウゲ科の植物です。カワイイ可憐な花ですが、アルカロイドを含む有毒植物です。カワイイからといってゆめゆめ口にははいけません。

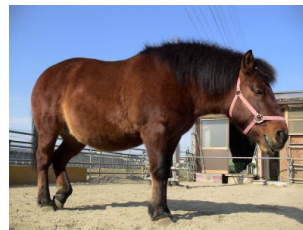
海馬は脳の記憶中枢をつかさどる器官の一つです。最近、歳と共に物忘れがひどくなってきています。これも年齢を重ねた結果と半分諦めの境地に近づいています。



馬耳東風。馬の耳に念仏。馬の耳にかかわる諺にはあまり良いものはありません。委細漏らさず小さな声にも耳を傾け、耳の痛い貴重な忠告にも誠心誠意対応するように心掛けます。



岐阜大学初の登録品種「フェアリーウィング」。昨年からは附属農場での販売が始まりました。今年は岐阜県内の生産者が年間1万鉢の生産体制で出荷し始めます。研究成果が社会貢献に、そして岐阜大学ブランドにと発展することを願っています。



木曾馬。まさに私の体型と同じです。デブったお腹を気にしながら、何とかあと数kgダイエットできればいいのですが…。イヤ、これも私の魅力の一つです。



岐阜が産んだ競馬界のヒーロー「オグリキャップ」。地方からでも全国に通じる名馬が出てきます。同じように地方にいたからこそ名将といわれた「伊達政宗」。岐阜は田舎ですが、日本の中央に位置する特質を活かして、全国区で活躍できるようになりたいと思います。

大学改革の嵐が吹き荒れる中、岐阜大学応用生物科学部は教育に軸足を置いて、有能な高度専門職業人を着実に社会に輩出し続けます。そして、バラの研究者として、日本の花き産業の発展に貢献し続けます。



本年も精一杯頑張りたいと思います。皆様からのご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

平成26年1月元旦